

今月のKYT（危険予知トレーニング）

◆ 夕方、アイスバーン状態の道路を走行しています。

- 前方左側、たいせつ堆雪の間からバックしている車が見えます。
- 自車は、このまま進んで行きたいのですが・・・。

【解説は次ページ】

下記のKYTトレーニングを実施し、自己の危険予知能力を高めましょう！

Q どんな危険が 潜んでいますか？



◎ 予想される危険を記入して下さい。

氏名

1

2

3

危険予知ポイント

雪道では慎重な運転に徹する

迂雪路等の雪道で、急ブレーキや急なハンドル操作といった「急」のつく動作をすると、車はスリップし、コントロールを失う危険があります。

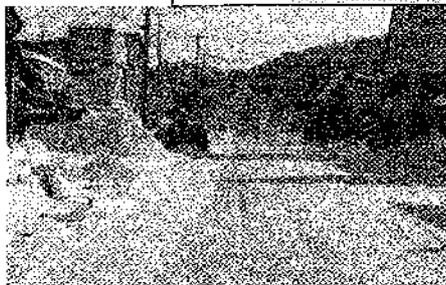
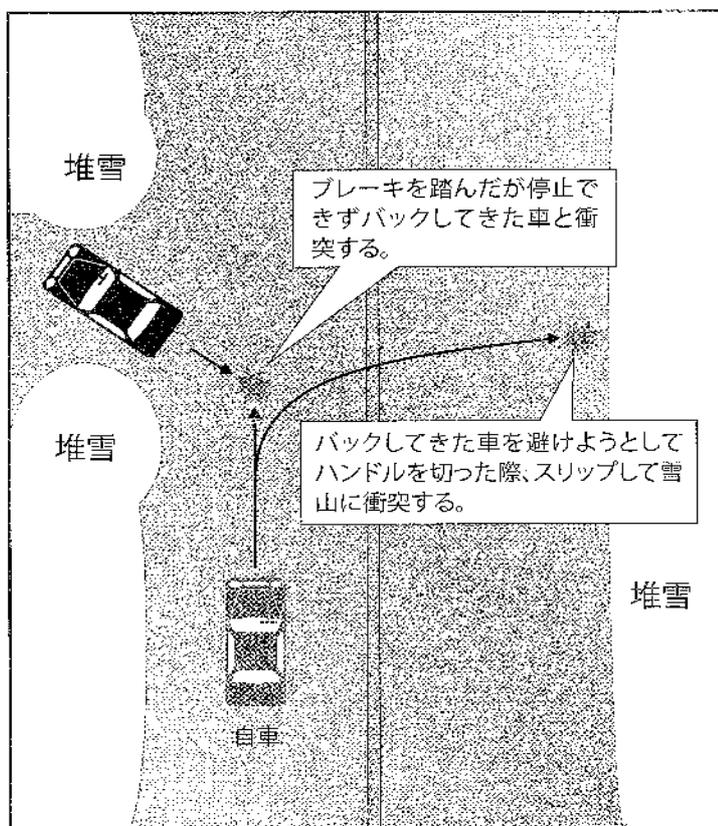
この場面では、バックしてくる車を無理に避けようとせず、一時停止してバックする車の動静を確認してから再発進しましょう。

いつでも止まれるスピードに落としておく

雪道では、停止距離が長くなることから、乾燥路面と同じ感覚で運転していると、危険の発見後、ブレーキをかけても止まりきれず衝突するおそれがあります。

前方に事故につながる危険が現れても安全に停止できるように、いつでも止まれるスピードで走行しましょう。

- ①バックしてきた車を避けようとしてハンドルを切った際、スリップして堆雪に衝突する。
- ②ブレーキを踏んだが停止できずバックしてきた車と衝突する。



雪道は事故につながる危険が多い。丁寧な運転を心がけよう

KYT(危険予知訓練)は、交通場面を見て、どこに、どういう危険があるかを想像することで、危険を予測する訓練法です。

日々KYTを行い、危険感受度を高めて危険回避に役立てましょう。

※ 毎月配信しています。有効に活用し事故防止にお役立てください。